

小規模事業場向け有機性排水処理技術
(厨房・食堂、食品工場関係) 実証試験要領(案)に対する意見

財団法人 関西環境管理技術センター
(エマテックカンサイ)
門口敬子

実証試験要領 (案) P24 「データ品質指標」 について

要点：JIS の手法に則った試料採取・分析を実施することが、生活環境項目のデータ品質管理の役割を果たしている。追加的な並行試験は、全試料の 10%程度に対して実施されれば十分である。

解説：

一般的なデータ品質指標としては、

- 同一試料を並行分析して得られる標準偏差やばらつきを確認する。
- ブランク試験、内部標準液の添加回収確認

等が考えられる。ダイオキシン類や、環境ホルモン物質などのように、微量化学物質の含有量そのものを測定する場合は前処理操作等が複雑であるため、これらの精度管理を行いデータの品質を保証することは必須であると思われる。

しかし、今回の有機性排水処理技術実証試験では、実証（測定）項目が、いわゆる生活環境項目（水質一般項目）であり、物質そのものの含有量をターゲットとした測定ではなく、条件分析による測定であるため、JIS 等の公定法を遵守して分析を実施することが精度を確保することになると考えられる。

具体的には、BOD は表に記載されている標準による試験操作の検証の実施が有効であると思われるが、COD、SS 等については、すべての試料について $n = 3$ の並行試験が必要かは疑問であり、作業性・経済性を考慮すれば、たとえば、全試料の 10%程度の割合で二重測定あるいは三重測定を実施する（ダイオキシン類測定の精度管理手法の一つ）という考えでよいのではないか。